

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

令和4年 学校教育だより

December **12** 第355号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線622)



写真提供／勝瀬小学校

読書の秋

〜ぜいたく〜

水谷小学校 五年

高橋 莉緒

秋はずかしい

ベランダのテラスに座って

本を読むのは秋の楽しみ

まんが

小説

絵本

いいなあ

いくらでも読める

飲み物を飲みながら

本を読むのはぜいたくだ!!

おかしを食べながら

本を読むのはぜいたくだ!!

な身体づくりをしていける ～校外学習で学んだこと～

指導者 西中学校 教諭 土山 由里衣


根底にある大切なもの
 今回の大きなテーマ「わかる授業」とは何か、考えてみました。以前、ある研修会で、「わからない」を言える子がかしこい子、「わからない」を生徒が言える授業が良い授業だと聞きました。つまり、「わからない、できない」を言える教室環境、そして学級作りが大切であるといえます。その上で、生涯にわたって、健康な身体づくりをしていくためには、やはり「楽しい！」と感じられることが何よりも大切だと考えています。

「体育好き」から「豊かなスポーツライフ」へ
 「体育の授業」と聞くと、どんなことを想像しますか？
 規律、集団行動、大きな声、球技、苦しい持久走…。良いイメージばかりではない方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。
 中学校保健体育科の目標は、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する」という点に注目して、西中学校の保健体育、校外学習を紹介させていただきます。

そこで、本校で行っている持久走の授業を紹介します。

時間数	活動
10時間目	二〇〇〇m走タイム計測
3～9時間目	チーム練習 一〇〇〇m×三本・三〇〇〇m走 二五〇m×十二本・オリジナルメニュー
2時間目	練習メニュー、タイム設定決め
1時間目	チーム分け（同程度の走力四人×六人） 二〇〇〇m走タイム計測

見学者Oが自慢です！
 一週休憩することができるとし、息を整え、次に自分のチームがもどってきたときに合流するようにしています。その判断は生徒自身に任せ、自主性を大切にしています。
 チームは、単元の最初に計測した二〇〇〇m走の記録をもとに、同じ程度の走力の生徒四～六人で組んでいます。
 同じ程度の走力で集まった仲間達と、約七時間分練習をしていくので、チームワークも自然と生まれてきます。走りながら「ファイト！ファイト！」「あと〇周！」「ハイッ！」といった声が続きます。
 そんな声も聞こえてきます。生涯にわたって身体を動かし、健康の保持増進に取り組むことができるよう、中学生の時期に、身体を動かすことの楽しさを多く経験してもらいたいと考えています。




つるせ台小学校 6年
 榎本 紗也香

私たち6年生にとって、「運動会」は今年で最後です。来年からは中学生となり、「体育祭」に変わってしまいます。コロナの影響で、学校全体で行うことはできませんでしたが、みんなの気持ちと勢いは変わりませんでした。

「運動会」から「体育祭」へ

6年生は、フラッグを使った演技をしました。フラッグのテーマは、「絆」と「感謝」です。赤、黄、青の旗が一つとなり、「絆」と「感謝」をのせてつるせ台の空にかがやきました。この「絆」と「感謝」を忘れず、中学校の「体育祭」に生かせるよう、残りの学校生活を過ごしていきたいです。



わかる授業

＝中学校 保健体育＝

生涯にわたって健康 「体育好き」を目指して

校外学習で学んだこと

教科とは離れますが、今年度本校の一年生は校外学習で、群馬県にある「千年の森、」-wings」に、「SMILE A DVENTURE 活動」(以下SA活動)に取り組みました。SA活動とは、ひとりの人間としての器を大きくし、さらにはチーム・組織・コミュニティの一員として活躍する人材の育成を目指すプログラムです。

クラスを二つに分け、各グループに、一名のファシリテーター(進行係)がつき、各

愛される人間を目指して

水谷中学校 教諭 荒池 真由美

水谷中学校は、特別支援学級設置から四年目を迎えました。今年度は、担当教員が新しくなり、新体制でスタートしました。はばたき学級の新たな目標は「愛される人間になろう。」です。なぜ愛される人間を目指すのか。社会に出た時に、自分の力だけではどうしても乗り越えられないことがあります。そんな時、周りから愛される人間であれば、

支え合いながら乗り越えることができるからです。いつも、この目標を意識して、挨拶や授業態度、周りの人とのコミュニケーションの取り方に気を付けるように指導しています。本学級の生徒は周りの人の良いところを素直に認めることができたり、休みの生徒の仕事を手伝ったり、周りの生徒の仕事を気持よくやってくれたりする生徒です。また、本学級では毎年、

活動を行います。生徒たちは、一人では簡単にできない活動を、どうしたら成功させることができるのか、何度も何度も考え、仲間と協力しながら取り組みます。何度やっても失敗を繰り返す、時間ばかりが過ぎていきます。その活動を外から見ている私たち教員は、生徒たちにすぐにヒントを与えたくありませんが、それはしません。成功に近づいたと思つたら、また失敗。限られた時間の中で、早く成功させてあげたい、何度も声をかけた気持ちをおさえながら、何先生方や保護者の方に販売する作品を作っています。「これ、買ってみたい。」と思つてもらえるような作品を、心をこめて作っています。いつもは集中するのが苦手な生徒も、一言も話さずに真剣に作っています。作品を販売する時にも、笑顔で心を込めた接客ができるように、練習していく予定です。

今後も「愛される人間」を基本に、社会的自立に向けた教育実践を展開していきたいと思えます。とか我慢。ファシリテーターの方々には驚くほどに辛抱強く、生徒たちの活動をじっと見守つていきます。そして、ついに「成功!!」「やったー!!」と両手を高く挙げ、男女関係なく、仲間同士でハイタッチ。その表情はキラキラと輝き、自分たちだけで成功したんだという、自信に満ちあふれていました。

まとめ

この校外学習を通し、生徒たちが成長したことは間違いありません。それと同時に、私たち教員は、「教える」という意味を考え直すきっかけを頂きました。生徒たちは、自ら成長する力を必ず持つていきます。「ヒント」や「コツ」を与え、目の前のことをすぐにできるようにさせることは簡単です。しかし、どのようにしたらできるのかを考える力や、失敗しても諦めずに、仲間と励まし合いながらできるような力や、身に付けることの方が、生涯に渡って大切なのではないでしょうか。これらの視点を持ち、今後も「体育好き」で溢れる保健体育の授業を展開していきます。

指導・講評

西中学校長

川端 正則

一人一人の子どもたちが、生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上をめざし、明るく豊かな生活を送ることは大切なことです。

これからも本校では、体を動かすことの楽しさ「体育好き」で溢れる保健体育の授業を展開していきます。



ハードルを与えてあげよう

水谷小学校 保護者 今成 優太

「パパ、〇〇したらだめだよね?」「監督!僕のダメなところはどこですか?」「私は子どもや選手がこのように聞いてきたら、「〇〇したいけど、いい?」「監督!どこを意識したらもつとよくなりませんか?」と言うようにしている、と返します。

私は、三人の男の子の父親です。また、少年野球の指導者を十年以上行っているなかで、この二つの言葉が現代社会を反映しているようにも感じます。何か失敗やミスをしたらずにすぐに注意されたり、ネット上で叩かれる時代。子どもの考えが失敗しないようにする方向やマイナスのことをまづ考えてしまうことに懸念を感じます。

本来、子どもが体験すべきハードルを保護者や周りの人が先に取り払ってしまい、きれいな道を進ませる。失敗をさせたくないという親心は理解しますが、子どもが体験し越えるべきもの(ハードル)がなくなってしまうているように思います。ある方に、



「気は十二分にかけなさい。でも、手はかけてはいけません」と、アドバイスを頂いたときに、なにかハツとさせられるものがありました。まず、子どもには何事にも挑戦させてあげる。失敗したのではない、そこから学んで今後の糧にしてあげられるように、保護者や周りの方がフォローをしてあげられる環境こそが、子どもの真の成長の土台となるのではないのでしょうか。



三つの宝で育む「生きる力」

関沢小学校

「あいさつ」「くつのかかとそろえ」「もくもく清掃」関沢小学校ではこれらを「三つの宝」として長年取り組まを続けています。

毎月の生活目標も「三つの宝」と関連づけて設定しています。月末には、生活目標を達成した児童に対する発表があります。子供たちはその放送を励みに、毎日意識して取り組んでいます。

す。

「三つの宝」の取組によって、基本的な生活習慣を身につけることはもちろん、礼儀、公共の精神といった、これからの社会で生きていくための基盤となる力を育成することができると考えています。中でも、特に「もくもく清掃」は、どの学年も物音一つ立てず、一人一人がもくもくと清掃に励む姿が見られます。



「三つの宝」は子どもたちにも習慣としてしっかりと刻み込まれており、関沢小学校の自慢の一つとなっています。

はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

まずは小さなきっかけから

富士見台中学校 保護者 木庭 加代

私の好きな四字熟語は、『一期一会』です。なんとなく意味は分かっていたのですが、改めて調べると「一生に一度だけの機会と考えて、そのことを大切にすると書いてあります。出会った後や経験した後どうするかはおいでにおいて、まずは色々なことを試せばと思っています。そんな親の気持ちとは裏腹に、遠慮がちなお子にはわかりやすく、一度だけのチャンスを無く

駄にしないようにと伝えていきます。そして、挨拶は大事だよとしつこく言っています。家の前を散歩でよく通る方、ゴミ出しで会う方には、挨拶して顔を覚えてもらうように伝えていきます。最初は恥ずかしがっていましたが、慣れてくると一言交わせるようになってきました。特に、朝、挨拶すると、そのまま気持ちよく学校に行き、楽しく一日を始められる

ことに気づいたようです。

以前、子どもと行った公園でたまたま出会った方と意気投合し、子どもがいなくても会うようになった方がいます。何かあると話を聞いてくださり、すぐく助けられています。

子どもも、習い事で今まで接したことがない友達に話しかけることがあります。小さなきつかけが、大きな出会いや経験につながることもあります。そんな時は、「自分から話しかけてくださいね。」と褒めています。



「寄り添う」を合言葉に

富士見特別支援学校

本校は、県内唯一の小学部、中学部、高等部をもつ知的の市立特別支援学校である。多様な教育的ニーズをもった児童生徒が在籍しており、本年度の学校経営方針にも「児童生徒一人一人を大切にす指導の充実」とあり、個に応じた指導・支援は必要不可欠である。本校では、通常の学校の教育課程に加え、児童生

ほどほどにでいいから、目の前にチャンスやきつかけが来たなと思つたら、動いてみてほしいです。



徒一人一人に対応した領域である「自立活動」が位置付けられていることが特徴である。授業では、将来に必要な基本的動作の習得や、場や相手に応じてコミュニケーションを円滑に行えるよう必要な知識を身に付ける活動など、個別に目標をもつて活動している。このよ



寄り添った活動により、主体的に自分のもてる力を発揮できたり、自己実現に繋がったりと活躍する場が広がっている。今後も十二年間の切れ目のない指導・支援を通して、児童生徒の生きる力をはぐくんできたい。

教育課題特集

生きる力を

ソフトボールのコーチ指導を通して

佐久間 隆太郎

富士見台中のソフトボール部コーチとして二年、外部指導員として四年、計六年の月日が経ちました。

現在は、二年生三名、一年生九名、計十二名と内海先生（前任校で県大会実績豊富な顧問）、川合先生（中学・高校とソフトボール経験者）、渡辺さん（現役ソフトボール選手）と優秀な指導者と共に県大会目指して日々の練習に励んでいます。

私自身が、鶴瀬小・富士見台中の卒業生であり、娘二人もソフトボール部にお世話になっていたというご縁もあり、コーチをすることになりました。

私自身は、学生時代にソフトボールの経験はなく、硬式野球を高校・大学と続け、プロ野球からもスカウトされたこともあり、社会人になってからも、母校の高校の硬式野球部コーチとして指導し、その傍らで、娘のソフトボール部に携わっていました。富士見台中の生徒たちの部活に対する熱心さや中学生に一人から教えることの難しさ、楽しさを感じ、私の野球技術のコーチ論を磨くための非常にいい

勉強になると思い、高校野球のコーチを辞めて、ソフトボール部のコーチに専念するようになりました。

常に心がけていることが二つあります。一つは、限られた部活動の時間で、質の高い練習を生徒たちに提供する事です。もう一つは、一人一人にあつた指導をするために日頃の生徒の立ち振る舞いや性格、運動能力などを見極めた上で技術指導をすることです。時には進路などの相談にも乗り、ソフトボール以外にも楽しく関わっています。

今後も、コーチ論を磨き、生徒と一緒に技術の向上や楽しさを求め、指導していきたいと思います。



人間尊重教育推進

わたしたちのまちに 育てよう 広げよう 人間尊重の心

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」

「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」

「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」

と呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのです。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとりの子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されており、ご活用ください。

家庭、学校・行政が力を合わせ、一体となって子どもたちの健全な育成に努力していきましょう。

家庭における人間尊重教育十か条

- 一 一人のいのちを大切にし
いのちある動物、植物をいたわりましょう
- 二 健康を大切にし 正しい食事と適度な運動で
からだづくりにつとめましょう
- 三 おはよう、おやすみ、たたいま、おかえりの
ことばが聞こえる温かい家庭をつくりましょう
- 四 ありがとう、ごくろうさまの素直なことばで
感謝の心を育てましょう
- 五 家族の仕事を分担し
家族の一員としての役割をはたしましょう
- 六 人の喜びを喜びとし 人の心の痛みを
分かちあい助けあつていきましょう
- 七 やさしさ いたわりの心を大切にし
おとしりの方々に学びましょう
- 八 どんな物も人の汗と力でできることを知り
物を大切にする心を育てましょう
- 九 正しくやさしいことばでつつまれた
明るい家庭をつくりましょう
- 十 正しいことをつらぬく強い心で
勇気ある行動をとりましょう

人間尊重 わたしたちの合言葉

【小学生の部】

動き出せ あなたの助け 待っている

(みずほ台小学校 五年 齋藤 朱璃)

やさしさは ころろにびびく たからもの

(勝瀬小学校 五年 平井 くるみ)

【中学生の部】

「これが好き」 認めてほしい 私の個性

(西中学校 一年 徳山 絢香)

視野広く 心の声を 聞くちから

(水谷中学校 一年 佐々木 結生)

〔入間郡市同和对策協議会 応募作品より
入間地区人権教育推進協議会〕

【小学生の部】

いじめだめ されていやなこと してはだめ

(南畑小学校 五年 嶋田 結羽)

感じ方 みんなちがうこと わすれずに

(つるせ台小学校 五年 近藤 みと)

【中学生の部】

いじめはね 相手も自分も 傷つける

(本郷中学校 一年 清水 紗弓)

みんな違う その人だけの 光る個性

(西中学校 一年 岩館 美佳)

〔富士見市人権教育推進協議会 応募作品より〕

人間尊重・私の主張

人権問題について

命の手を未来に繋ぐ

西中学校 二年 里見 さとみ 日風 あきら

皆さんは、「命を支える優しい心の手」を差し伸べたことはありませんか。この世界には、真つ暗の世界や眩しいと見えなくなる羞明などを抱え、生活を送る人は少なくないと思います。

中学校一年生の授業で視覚障害を理解するアイマスク体験をした時のことでした。視覚障害の方々はどのような世界を毎日過ごしているのか、アイマスクを付け、白杖を持って体育館内の周りを介助者と一緒に歩きました。実際に体験してみると、一歩一歩足を前に出すことが難しく、またどの場所に移動しているのかが分からなくなる時もありました。普段置かれていた小さな物でも、大きな障壁になるということを知りました。

私は、数多くあるバリアを乗り越えてきている視覚障害の方々、何か力になれることはないかと周りを見渡し、一日一日考えることにしました。「視覚障害」について考えているうちに、ある光景に出会ったのです。

満員電車の中、白杖を持ち、手すりにつかまっていた目の不自由な一人の女性が、不安な顔をしていたのを、遠くから私は見ていました。「もし、女性に何か大きな被害があったら、助けなかった私たち、みんなの責任になるかもしれない。一人ひとり、平等に生きられる優しい世界を創りあげたい。自分になりたい。」と思い、電車のドアが開くと真つ先に、女性に「大丈夫ですか、私にできることがあれば、お手伝いします。」と声をかけました。すると女性は「ありがとうございます。とても助かります。」と不安げだった顔が和らぎ、微笑んだ顔で言いました。私は、女性に私のひじの上を持ってもらい、歩幅をあわせ、ゆつくりと駅の改札口まで歩きました。女性と別れる間際には、「ありがとうございます。この優しい心の手を忘れないでください。」と温かい言葉をかけていただいたことを今でも鮮明に覚えています。

私は、その日の夜、どうしたらみんなが気持ちよく、平等に生活することができているのか、あの時の場面を思い出して考えました。

女性の周りには、下を向き、スマートフォン画面を見ている人たちが、女性の姿に気づいていながらも、声をかけることができずにその場から去っていく人もいたということがあります。白杖を持った女性がいるのにもかかわらず、人々は自分を優先し、遠くに行こうとしている行動が、周りに目を向けられず、自分らしく目を向けていないと私は感じました。なぜ声をかけ、助けようとならないのだろうかという疑問を抱くと同時に、心が苦しくなりました。

翌日、視覚障害について詳しく調べたところ、視覚障害の方は、全く見えない全盲状態と「ロビジョン」と呼ばれる、まったく見えないわけではないけれども、目でその場を受け取るのが不自由な場合があるということが分かりました。きっと、周りの人々は「白杖をちゃんと持って歩いているから大丈夫」という認識をしてしまっているから一人の行動をみて、また一人が便乗する、まさにその行動が無限という穴に陥ってしまったのです。しかし、一人が周りに気づき、優しい心の手を差し伸べたら、この世界が今よりも安心して暮らすことができると思います。

現在、新型コロナウイルス感染症拡大が収まることのない時代で、人と人との接触、物などを触れることを出来るだけ控えるという感染対策が行われています。予防という視点では大事なことだと思いますが、接触が減っている場面に懸念を抱き、触れることの大切さを訴えている視覚障害者の方の中にもいると思います。そんな心の強い人々に私たちが何か力になれることはないでしょうか。触れることができないけれども、その他にできる行動は沢山あります。そして、自分でも視覚障害者だつたら、どんな行動が助かるのだろうか、同じ視点にたつて、考えた行動を移せばいいのです。私たちが、みんなの心優しい気持ちがあれば、共に助け合う、良い社会を創りあげることができると思います。

私は、視覚に障害のある女性の言葉を深く心に刻み込み、これからお互いが支え合って生きることが出来る優しい手をつないでいきたいと思いました。

この先、未来でも、一人ひとり幸せに暮らせる世界になることを願っています。

《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

- 一 私たちは、いじめをしている人に「遊び半分で相手を傷つけるようなことをしてはいけません。」と注意します。
 - 一 私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。
 - 一 私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。
 - 一 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願いします。
- 私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、「いじめはだめだ。」とつたえ続けます。

《中学校宣言》

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために、以下のことを宣言します。

- 一 私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。
 - 一 私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。
 - 一 私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよう。」と声をかけていきます。
 - 一 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりちゃんと理解して、よくなかったら注意をしてください。」とお願いします。
- 私たちは、仲間を大切にして、いじめを撲滅する努力をします。

富士見市 いじめのない学校づくり宣言

教育委員会だより

◆令和3年4月以降に高校・大学等に修学されたお子様の保護者の方へ

<富士見市>利子補給制度のご案内

高校・大学等で修学するため、入学資金や在学資金など教育に要する資金を必要とされる方が、日本政策金融公庫の教育一般貸付を受けた場合に、教育の機会均等と経済的負担の軽減を図るため、市がその返済利子の一部を助成します。

1 交付対象

次の全てに該当する方

- ①高校、大学等へ修学する方またはその保護者であること
- ②富士見市に住民登録があり、現に居住していること
- ③市税を滞納していないこと
- ④日本政策金融公庫から、教育資金の融資を受けていること

(※) 利子補給制度の対象となる融資は、就学する学校ごとに1回のみです。

2 利子補給期間

在籍する高校、大学等の正規の修学期間とします。

3 利子補給金額

借入れに係る利子の年額(上限1万7千円)を助成します
(※) 利子の年額は、年度単位で計算します。

4 申請方法等

申請方法・申請時期等の詳細は、富士見市のHPをご確認ください。

◇利子補給に関する問合せ先

富士見市教育委員会 教育政策課(富士見市立中央図書館2階)
電話 049-251-2711(内線611)

◇教育一般貸付に関する申込み・問合せ先

日本政策金融公庫
教育ローンコールセンター:0570-008656
(ナビダイヤル)

<富士見市近くの店舗>

日本政策金融公庫 川越支店
住所 川越市脇田本町14番1 日本生命川越ビル5階
電話 049-246-4171(申込み相談)



待っていました。まず最初に出た言葉は「すごい学年だ。」ということでした。新年度が始まった当初は、まだみんなは緊張してか、静

東中学校 教諭 押野 智也
動きを伝えました。普段それまで話をしたことがなかった生徒同士もダンスを覚えるために必死で練習をしました。その光景を見て、「仲の良いクラスだな。」と感じました。体育祭では、学年優勝は逃しましたが、

その後、秋の合唱祭では持ち前の協力性と明るさで学年最優秀賞を獲得することができました。四月から、生徒達に伝え続けてきたことは、「当たり前前にならなければならない。」ということ。人に会ったら挨拶をする、ゴミが落ちていたら拾うなど、当たり前前にならなければならない。できる一人前の大人になつてほしいと願っています。時には厳しく指導することもありますが、みんな頑張って頑張っています。必勝二年二組!

いよいよ冬。朝晩の冷たい空気に体全体が引き締まる感覚です。さて、私がまだ教員になりたての頃、冬といえばスキーがブーム、長期の休みには必ず友達と雪山に出かけていました。(年代がわかってしまいますね。)当時は、教員として悩むことが多くありました。子どもたちのこと、保護者のこと、そして自分自身の教員としての仕事ぶり…。等々スキー板とともに様々な悩みも心に持ったまま、雪山のペンションに数日間出かけました。そして、ある夜、その雪山では珍しく穏やかな天気の日、外に出ると無風の空気が、積もった雪に大の字に寝転がって空を見上げました。濟んだ空気の中に、一面の星、星、星。言葉も出ないぐらい心が洗われる景色です。じつとその景色の中になると、「日ごろの自分の悩み事なんてちっぽけなものだなあ」と感じました。自然は、つらい寒さも与える反面、私の小さな考えをすっぽり包み、おらかな気持ちを持たせてくれました。自然の偉大さに感動する心、子どもたちにもいつか経験してほしいです。

編集日記

(齊藤七実)